

メロン に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	炭疽病	べと病	つる枯病	菌核病	うどんこ病	斑点細菌病	陥没病	果実汚斑細菌病							
アミスター20フロアブル		●	●		●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	アゾキシストロビン	4回以内	11
アリエッティ水和剤		●							800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ホセチル	3回以内	P07
カスミンボルドー/ 銅パーシン水和剤					●	●	●		1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	5回 以内	散布	カスガマイシン	5回以内	24
								塩基性塩化銅					-	M01	
カンタスドライフロアブル				●					1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ボスカリド	3回以内	7
ジマンダイセン水和剤	●	●	●		●			疫病	400~600倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	マンゼブ	5回以内 (殺虫殺菌剤)	F:M03 I:UN
ロブラール水和剤			●	●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	イプロジオン	5回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内)	2
ベルコート水和剤			●		●				1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	イミノクタジンアルベシル酸塩	5回以内	M07
スマレックス水和剤				●					2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	プロシミドン	3回以内	2
ホライズンドライフロアブル		●							2500倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シモキサニル	3回以内	27
								ファモキサドン					3回以内	11	
マネージ水和剤					●				1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	イミベンコナゾール	4回以内	3

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	炭疽病	べと病	つる枯病	菌核病	うどんこ病	斑点細菌病	陥没病	果実汚斑細菌病							
ランマンフロアブル		●							1000~2000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	シアゾファミド	4回以内	21
サンヨール液剤AL					●			ハダニ類 アブラムシ類	原液	収穫前日まで	4回 以内	散布	DBEDC	4回以内 (殺虫殺菌剤)	M01
フェスティバルC水和剤		●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジメトモルフ	3回以内	40
													塩基性塩化銅	-	
ライメイフロアブル		●							2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	アミスルプロム	4回以内	21
ジーファイン水和剤					●				750~1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	NC
													<野菜類(なすを除く)該当>		
								白さび病 軟腐病	1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	無水硫酸銅	-	M01
フルピカフロアブル					●				2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	メパニピリム	4回以内	9
カリグリーン					●				800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	NC
								さび病 灰色かび病	800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
硫黄粉剤50					●			ハダニ類	3kg/10a	-	-	散布	硫黄	- <野菜類該当> (殺虫殺菌剤)	F:M02 I:UN
アフェットフロアブル		●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペンチオピラド	3回以内	7
									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
ブリザード水和剤		●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	シモキサニル	3回以内	27
													T P N	5回以内	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	炭疽病	べと病	つる枯病	菌核病	うどんこ病	斑点細菌病	陥没病	果実汚斑細菌病							
ドーシャスフロアブル		●	●		●				1000倍 (150~300L/10a)	収穫3日前まで	4回 以内	散布	シアゾファミド	4回以内	21
													T P N	5回以内	M05
プロポーズ顆粒水和剤		●	●						1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	5回 以内	散布	ベンチアバリカル ブイソプロピル	5回以内	40
													T P N	5回以内	M05
ダコニール1000					●				700倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	5回 以内	散布			
		●							700~1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	5回 以内	散布	T P N	5回以内	M05
			●						1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	5回 以内	散布			
スコア顆粒水和剤			●		●				2000倍 (200~400L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジフェノコナゾール	3回以内	3
ポリオキシンAL水溶剤			●						10~50倍 (-)	収穫7日前まで	1回	塗布			
			●		●				1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	ポリオキシン複合体	5回以内(但し、塗布は1回以内)	19
								アザミウマ類 ハダニ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布		(殺虫殺菌剤)	
ダイアメリットDF			●		●				1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	イミノクタジナル アルベシル酸塩	5回以内	M07
													ポリオキシン複合体	5回以内(但し、塗布は1回以内)	19
ハーモメイト水溶剤					●				800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
								灰色かび病 さび病	800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	<野菜類該当>	NC
トリフミン水和剤					●				3000~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
			●						3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリフルミゾール	5回以内	3

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	炭疽病	べと病	つる枯病	菌核病	うどんこ病	斑点細菌病	陥没病	果実汚斑細菌病							
パンチョTF顆粒水和剤					●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルフェナミド	2回以内	U06
													トリフルミゾール	5回以内	3
キノンドーフロアブル						●			1000倍 (100~300L/10a)	収穫10日前まで	5回 以内	散布	有機銅	5回以内	M01
トップジンMペースト			●						原液	発病初期 (但し、収穫21日前まで)	1回	塗布	チオファネートメ チル	5回以内(但し、種子への処理は1回以内、 塗布は1回以内、散布は3回以内)	1
トップジンM水和剤			●	●			●		1500~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チオファネートメ チル	5回以内(但し、種子への処理は1回以内、 塗布は1回以内、散布は3回以内)	1
タチガレン液剤								苗木枯病 (ピシウム菌)	500倍 (3L/m ²)	は種時	1回	全面土壌灌注	ヒドロキシイソキ サゾールカリウム	1回	32
オーソサイド水和剤80		●	●						600倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	5回 以内	散布	キャプタン	5回以内(但し、種子粉衣は1回以内)	M04
	●								400~800倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	5回 以内	散布			
								苗木枯病	種子重量の0.2~0.4% (-)	は種前	1回	種子粉衣			
								苗木枯病	800倍 (2L/m ²)	は種後から2~3葉期まで	5回 以内	灌注			
スクレアフロアブル	●			●					2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンデストロビン	3回以内	11
ベルコートフロアブル			●	●	●				1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	イミノクタジナル ベシル酸塩	5回以内	M07
モレスタン水和剤					●				2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	10回 以内	散布	キノキサリン系	10回以内	F:M10 I:UN
									100g/10a (5L/10a)	収穫3日前まで	10回 以内	常温煙霧			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

メロン に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	ト ハ モ グ リ バ エ	ミ ナ ザ ミ キ ウ マ	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ウ リ ノ メ イ ガ	ウ リ ハ ム シ 幼 虫	タ ネ バ エ							
アグロスリン乳剤	●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	シペルメトリン	5回以内	3A
		●	●						1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
アドマイヤー水和剤	●				●			アザミウマ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで (但し、露地栽培につ いては着果後)	3回 以内	散布	イミダクロプリド	4回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植 時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以 内)	4A
アフーム乳剤								アザミウマ類	1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	エマメクチン安息 香酸塩	2回以内	6
					●	●		ハモグリバエ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
オリオン水和剤40	●					●			1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	アラニカルブ	5回以内	1A
カスケード乳剤			●						2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	フルフェノクスロン	3回以内 (昆虫成長制御剤)	15
		●						タバココナジラミ類 (シルバーリーフコ ナジラミを含む)	2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布			
カネマイトフロアブル				●					1000~1500倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	アセキノシル	1回	20B
スミチオン乳剤	●								1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	MEP	5回以内	1B
								アザミウマ類	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
コロマイト乳剤				●	●			ハモグリバエ類	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内	6
サンマイトフロアブル	●			●	●			うどんこ病	1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	ピリダベン	2回以内 (殺虫殺菌剤)	21A

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード		
	ア ブラ ム シ 類	ト モ グ リ バ エ	ミ ナ ザ ミ キ ウ マ	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ウ リ ノ メ イ ガ	ウ リ ハ ム シ 幼 虫	タ ネ バ エ								その他 病害虫	
スピノエース顆粒水和剤						●			アザミウマ類 ハモグリバエ類	5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内	5	
ダニサラバフロアブル				●						1000倍 (100~350L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルメトフェン	2回以内	25A	
ダントツ水溶剤	●		●		●				ハモグリバエ類 ウリハムシ	2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A	
ダントツ粒剤	●				●					1~2g/株	育苗期後半	1回	株元処理	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A	
	●				●					1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和				
		●	●								2g/株	定植時	1回				植穴処理土壌混和
	●										1~2g/株	定植後 (但し、収穫前日まで)	3回 以内				株元散布
チェス顆粒水和剤	●									5000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	4回 以内	散布	ピメトロジン	4回以内	9B	
バロックフロアブル				●						2000倍 (100~350L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	エトキサゾール	2回以内	10B	
ピラニカEW				●						2000~3000倍 (150~300L/10a)	収穫3日前まで	1回	散布	テブフェンピラド	1回 (殺虫殺菌剤)	21A	
ベストガード水溶剤	●		●		●					1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A	
ベストガード粒剤	●				●					1g/株	育苗期	1回	株元処理	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A	
	●		●		●					1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和				
マイトコーネフロアブル				●						1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	ビフェナゼート	1回	20D	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	ト モ グ リ バ エ	ミ ナ ザ ミ キ ウ マ	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ウ リ ノ メ イ ガ	ウ リ ハ ム シ 幼 虫	タ ネ バ エ							
モスピラン水溶剤	●								8000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	3回以内	4A
アクタラ顆粒水溶剤	●								3000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアメトキサム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)	4A
		●	●						2000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
バリアード顆粒水和剤						●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアクロプリド	3回以内	4A
	●								4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
			●		●				2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
マトリックフロアブル						●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロマフェノジド	3回以内 (昆虫成長制御剤)	18
マラソン乳剤	●			●					1000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マラソン	3回以内	1B
								ウリハムシ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
マラソン粉剤3	●			●				ウリハムシ カメムシ類	3kg/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	マラソン	3回以内	1B
ネマキック粒剤								ネコブセンチュウ	15~20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	イミシアホス	2回以内(但し、定植前の土壌混和は1回以内、生育期の土壌灌注は1回以内)	1B
ウララDF	●								2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内	29
					●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	ト モ グ リ バ エ	ミ ナ ザ ミ キ ウ マ	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ウ リ ノ メ イ ガ	ウ リ ハ ム シ 幼 虫	タ ネ バ エ							
アルバリン粒剤/ スタークル粒剤								ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	ジノテフラン	3回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
					●				1~2g/株	育苗期	1回	株元散布			
	●								1g/株	育苗期	1回	株元散布			
								ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
					●				1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
	●								1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
ベリマークSC	●				●			アザミウマ類	希釈倍数 400株当り25mL 使用液量 400株当り10~20L (1株当り25~50mL)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	シアントラニリプ ロール	1回	28
	●								希釈倍数 400株当り25mL 使用液量 400株当り20~200L (1株当り50~500mL)	定植直後	1回	株元灌注			
モベントフロアブル	●			●	●			アザミウマ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	スピロテトラマト	3回以内(但し、灌注は1回以内) (殺虫殺菌剤)	23
				●				アザミウマ類	500倍 (50mL/株)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注			
	●				●				500倍 (25~50mL/株)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> メロン

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	ト モ グ リ バ エ	ミ ナ ザ ミ キ ウ マ	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ウ リ ノ メ イ ガ	ウ リ ハ ム シ 幼 虫	タ ネ バ エ	その他 病害虫							
アグリメック				●	●				アザミウマ類	500～1000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アバメクチン	3回以内	6
ディアナSC					●					2500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
							●		アザミウマ類 ハモグリバエ類	2500～5000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
フェニックス顆粒水和剤						●			オオタバコガ	2000～4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28
ダイアジノン粒剤3							●			5～8kg/10a	は種時又は植付時	2回 以内	土壌混和	ダイアジノン	4回以内(但し、粒剤の生育期の処理は3回 以内)	1B
								ケラ ネキリムシ類	6～9kg/10a	は種時又は植付時	2回 以内	土壌混和				
							●			6～9kg/10a	植付時	1回	土壌混和			
									コガネムシ類幼虫	5～10kg/10a	植付時	1回	土壌混和			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

メロン に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和7年5月1日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
タッチダウンIQ	一年生雑草	250~500mL/10a (25~50L/10a)	耕起7日以前 (雑草生育期)	1回	雑草茎葉散布	グリホサートカリウム塩	1回 <#>	9
バスタ液剤	一年生雑草	300~500mL/10a (100~150L/10a)	収穫30日前まで (雑草生育期耕起前・定植前又は畦間処理)	2回以内	雑草茎葉散布	グルホシネート	2回以内	10
プリグロックスL	一年生雑草	600~1000mL/10a (100~150L/10a)	は種前又は植付前	3回以内	雑草茎葉散布	ジクワット	3回以内	22
		600~1000mL/10a (100~150L/10a)	畦間処理・雑草生育期(但し、収穫3日前まで)	3回以内	雑草茎葉散布	パラコート	3回以内	22
クレマート乳剤	一年生雑草	200~400mL/10a (100~150L/10a)	定植・マルチ前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	ブタミホス	1回	3

#：野菜類該当(えだまめ、たらのぎ、はくさい、キャベツ、レタス、ねぎ、たまねぎ、ほうれんそう、にんじん、だいこん、はつかだいこん、アスパラガス、トマト、きゅうり、なす、オリーブ(葉)、ピーマン及びとうがらし類、びわ(葉)、薬用にんじん、てんさい、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、かんしょ、ばれいしょを除く)

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。